

# 令和6年度 第1回岩手県 I L C 推進本部会議

日時：令和6年4月22日(月) 庁議終了後

会場：第一応接室

## 1 開会

## 2 本部長挨拶

## 3 報告

(1) I L C 計画に係る動き…………… 1 ページ

(2) 令和5年度における取組実績…………… 2 ページ

## 4 議事

令和6年度における I L C 推進の具体的な取組内容…………… 11 ページ

## 5 その他

## 6 閉会

# 1 ILC計画に係る動き

## ➤ 研究者がタイムラインを公表

- 令和5年4月 KEK(高エネルギー加速器研究機構)の山内機構長は超党派国会議連拡大総会における講演の中で、2030年頃を建設開始とするタイムラインを公表。日本政府による誘致判断のタイミングについては、現在欧州で行われているFCC-ee(次世代円形衝突型加速器)の実現可能性調査の結論が出る2025年が一つの目途となると説明

## ➤ 国際協働による研究開発や政府間協議に向けた取組が進む

- 令和5年7月 KEKとCERN(欧州原子核研究機構)が、国際協働による新たな研究開発の枠組みであるILCテクノロジーネットワーク(ITN)に関する協定を締結。以降、ITNの拡大の取組とともに、順次、研究開発が進められている。  
なお、令和5年度以降の政府予算には、将来加速器の性能向上に向けた重要要素技術開発費(7億円)を含むILC関連予算が計上され(R6:10.5億円、R5:9.7億円)、ITNによる研究開発に活用されている。
- 令和5年7月 ILC国際推進チームが主宰する国際有識者会議が、これまでのグローバルプロジェクトとILCの現状を分析した報告書を取りまとめ。定期的な政府レベルでの会合の開催と具体的な協議に向けた環境醸成の取組を推進

## ➤ 米国がILCへの貢献を想定

- 令和5年12月 米国における今後10年の素粒子物理学の方向性を示す「P5報告書」に、米国が貢献するプロジェクトの選択肢として、ILCを多額の予算規模と共に掲載

### <P5報告書の概要(抜粋)>

- FCC-eeとILCの現在の設計は、我々の科学的要求を満たしている。米国は、実現可能性と設計の研究に積極的に取り組むべき。
- (前略) オフショア(海外)の選択肢を模索し、国際共同研究を精力的に進めることで、いずれかのプロジェクトが実現したときに米国が大きな役割を果たせるようにすることを推奨する。
- (建設に関する様々な予算シナリオに関する図中の記述) オフショア(海外)ヒッグスファクトリーの建設に関し、今後10年間の建設予算規模は、10~30億ドル(145円/\$換算で、1,450億円~4,350億円)が想定されている。

## ➤ 関連団体等の動きが活発化

- 岩手県国際リニアコライダー推進協議会など県内外の関連団体による講演会等の活動が活発化
- 令和5年9月 盛岡市でILCに関する国際ワークショップが開催

研究者による取組が着実に進展し、国内外にILCを後押しする動きがある中、タイムリーな日本政府の前向きな判断を後押しするための国民的な機運醸成の必要性が高まっている。

## 2 令和5年度における取組実績

### 1 ILC実現に向けた取組

#### (1) 国等への要望

##### ア 政府予算要望

6月14日 内閣府【地方創生】(岡田直樹 大臣)、財務省(鈴木俊一 大臣)、文部科学省(井出庸生 副大臣)、  
内閣府【科学技術政策】、復興庁、外務省、経済産業省、国土交通省

11月14日 内閣府【科学技術政策及び地方創生】、復興庁、財務省、文部科学省

##### ■令和6年度政府予算等に関する提言・要望(11月14日)

###### 《 要望事項 》

###### 国際リニアコライダー(ILC)の実現

ILCの実現に向けて、次の事項について要望します。

- 1 国際協働による加速器の研究開発が着実に進むよう、必要な予算を確実に確保すること
- 2 関係省庁が連携して取り組む国家プロジェクトとして位置づけ、政府全体で誘致を推進すること
- 3 日本政府が主導し、国際的な議論を推進すること

##### イ 全国知事会 国の施策並びに予算に関する提案・要望

8月「地域における科学技術の振興について」

##### ウ 北海道東北地方知事会 定期提言

7月、11月「国際リニアコライダーの実現について」



6月 財務省 鈴木俊一大臣への要望

## (2) 研究者の取組への支援

東北ILC事業推進センターにおいて、研究者が行う取組を支援。

### 【令和5年度東北ILC事業推進センターの取組実績】

- **サステナビリティ国際ワークショップへの協力**  
ILC実現を契機とした持続可能なエコ社会の形成を目指すグリーンILCに関する「サステナビリティ国際ワークショップ」（9月盛岡開催、岩手大学主催）に協力し、国内外の研究者へグリーンILCの取組を情報発信
- **地形・地質調査、施設配備**  
土地利用、景観や自然等の地域社会への影響に配慮した施設配置案の取りまとめ
- **物流、組立拠点等の研究**  
大型機器の輸送課題の対応の経済性等を踏まえた機器の製造工程の見直し、分割輸送・現地組立を行う代替案の可能性の調査、比較検討等
- **まちづくり、受入環境整備**  
岩手大学等との共同研究「ILC誘致を契機にしたまちづくり（ILCまちづくり）の研究」
- **地域住民の理解促進活動**  
ILCの意義、ILC計画の最新の状況、安全管理等について地域住民などに説明するILC解説セミナーを開催
- **加速器関連産業の振興**  
加速器技術の動向把握や放射光の利用拡大を通じたPR活動等の実施



9月 国際ワークショップ ウェルカムパーティー（盛岡市）



2月 ILC 解説セミナー（一関市）



5月 G7科学技術大臣会合における  
県内企業技術の展示（仙台）

### (3) 国民・県民理解の増進

#### ア 普及啓発の推進

##### (ア) 講演会（一般対象）の開催

- ・ ILC講演会～三陸港湾の活用とILCを生かしたまちづくり～（岩手県主催）の開催（9月） 参加者数103名
  - ・ ILC講演会の開催（8月） 参加者数約300名（オンライン含む）（岩手県国際リニアコライダー推進協議会と共催）
- ※ 各講演は、後日、オンラインによる録画配信を実施



9月 ILC 講演会（大船渡市）

##### (イ) 地域住民を対象とした説明会等の実施

ILC解説セミナーを開催し、ILCの意義等について情報発信（2月）（東北ILC事業推進センターと連携）参加者数51名

##### (ウ) 岩手ILC連携室・オープンラボの公開

来場者：6団体（県内事業者、岩手県商工会議所連合会 等） 80名  
一般公開（工業技術センター公開DAY2023と同時開催） 1,285名



10月 岩手 ILC 連携室・オープンラボ一般公開  
※ 工業技術センター公開 DAY2023 と同時開催

##### (エ) 県内商工関係団体機関紙等による情報発信

岩手県国際リニアコライダー推進協議会と連携し、6団体の機関紙等に「ILC current topics」として掲載する情報を提供

・ 盛岡商工会議所	10回（毎月3,700部）
・ 岩手経済同友会	9回（毎月500部）
・ 岩手県中小企業団体中央会	11回（毎月900部）
・ 岩手県経営者協会	9回（毎月450部）
・ いわて産業振興センター	4回（隔月1,000部）
・ 岩手県商工会連合会	4回（4半期11,600部）

## イ イベントへの出展等によるPR

### (ア) イベント等への出展（県内12イベント、県外4イベント）

- 4月 ニコニコ超会議2023（千葉県）
- 5月 ILC講演会【県商工会議所青年部連合会主催】（花巻市）
- 6月 全国植樹祭（陸前高田市）
- 7月 いわてまるごと科学・情報館（宮古市）、いわてグルージャ盛岡公式戦（盛岡市）
- 8月 盛岡さんさ踊り（盛岡市）、SF大会（埼玉県）、  
岩手銀河フェスタ（奥州市）【県南広域振興局対応】
- 9月 農研センター一般公開（北上市）
- 10月 釜石シーウェイブスRFC公式戦（釜石市）、工業技術センター一般公開（盛岡市）  
立川志の輔独演会（北上市）
- 11月 サイエンスアゴラ2023（東京都）、いわてまるごと科学・情報館（盛岡市）  
VACUUM2023真空展（東京都）※11/29-12/1
- 12月 岩手ビッグブルズ公式戦（盛岡市）

### (イ) 盛岡駅前歓迎塔への看板掲出【盛岡広域振興局】

盛岡の玄関口である盛岡駅前に看板を掲出し、来県者及び市民へのPRを実施

## ウ 国内外に向けた情報発信

SNSによる岩手の食や観光等の情報発信

【海外向け】 THE KITAKAMI TIMES X(旧Twitter)「Iwate & the ILC」

【国内向け】 X(旧Twitter)「岩手&ILC」 Facebook「岩手&ILC」

県政テレビ番組「いわて！わんこ広報室」における情報発信

ILCをもっと知ろう～グリーンILCの取り組み～（1/22～2/4放送）

【市町村向け】 Iwate ILC News Letterの発行による情報提供

## エ 小中学生を対象とした理解促進の取組【盛岡広域振興局、県南広域振興局と連携】

県内の小中学校において出前授業を実施（8校）

## オ その他

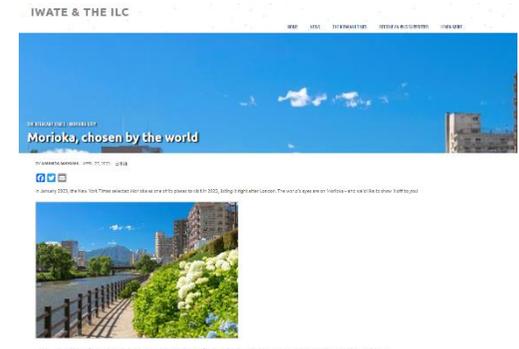
- 10月 ドイツ・ラインラント・プファルツ州 マル・ドライヤー州首相知事表敬における情報提供  
アルザス欧州日本学研究所(CEEJA)のトロットマン所長知事表敬における情報提供



11月 VACUUM2023 真空展  
（東京ビッグサイト）



盛岡駅前看板掲出



4月 THE KITAKAMI TIMES 掲載記事  
「世界から選ばれた盛岡」

## 2 ILCプロジェクトの推進

### (1) 国際研究拠点の形成支援等（まちづくり・インフラ整備分科会）

#### ア 県内港湾を活用した機器輸送に係る広域的な計画等の整理

- (ア) 機器輸送ルートや輸送に係る課題・対策など、東北ILC事業推進センターがこれまでに調査・検討した広域的な機器輸送計画の策定に資する情報の整理に協力
- (イ) 東北ILC事業推進センターが実施する広域的な機器輸送計画等に関する研究者と関係自治体との意見交換に参加（1回）

#### イ ILCを契機とした居住や交通、エネルギー等に関する地域の将来まちづくり

- (ア) 岩手大学及び東北ILC事業推進センターによる共同研究「ILC誘致を契機にしたまちづくり（ILCまちづくり）の研究」に協力（居住、交通、エネルギー等の5例）
- (イ) KEKが実施する環境アセスメントに関する検討に参加し、庁内関係部局と情報を共有しながら取組を支援（6回）

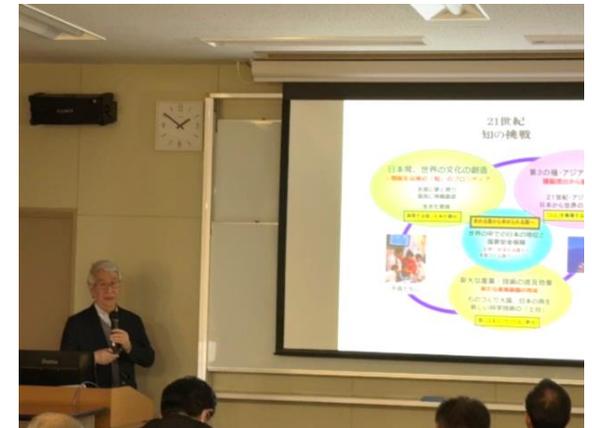


大船渡港

### (2) イノベーションの創出（産業振興分科会）

- #### ア 県内企業の加速器関連産業への参入促進に向けた、関連企業の技術力向上と人材育成
- いわて加速器関連産業研究会を通じたILC技術セミナーを開催し、加速器の最新技術や産業利用等、幅広く情報を提供（5回）

- 第1回 ILCの歴史、加速器関連参入企業の紹介（79名）
- 第2回 J-PARCハドロン実験施設における基礎物理研究と技術紹介等（85名）
- 第3回 次世代放射光施設「ナノテラス」の概要と放射光測定事例の紹介等（82名）
- 第4回 講演：岩手と国際リニアコライダー・ILC（岩手県立大学 鈴木学長）、電子駆動型陽電子源開発の紹介等（135名）
- 第5回 心臓CTの研究、超伝導空洞の処理技術等（142名）



1月 第4回 ILC技術セミナー  
（宮古市）

## イ ILCに関連する技術・研究成果の産業化の支援

- (ア) 専門知識を有する加速器コーディネーターを配置し、県内企業と研究機関・大手企業等とのマッチングを実施（KEKなどから12件の受注）
- (イ) 次世代放射光関連の装置や部品を受注した企業に対し、製造から納品までの継続した技術支援を実施
- (ウ) いわて産業振興センターがILCの要素技術の一つである陽電子源に関する設計をKEKから受注し、KEKや岩手県工業技術センター等の研究機関と連携し、企業の加速器関連機器の研究開発を支援（令和3年度～）
- (エ) 岩手ILC連携室・オープンラボに整備した試作品性能評価機器等を活用し、研究者を講師とした加速器真空チェンバーの真空度の測定や加速管の加速電場測定など、企業の技術力向上を目的とした講習会（チャレンジ部）を開催（5回）

- 第1回 真空排気装置の取扱いに関する実習（9社19名）
- 第2回 四極電磁石等の磁場測定実習（3社8名）
- 第3回 メインビームダンプのシミュレーション実習（2社3名）
- 第4回 陽電子源用の加速管に関する加速電場測定実習（3社3名）
- 第5回 多重極電磁石負荷による磁場測定実習（3社3名）

- (オ) 学会や展示会等の機会を活用し、いわて加速器関連産業研究会の取組成果をPR
  - ・ G7科学技術大臣会合での技術展示（5月）
  - ・ 第20回日本加速器学会年会へのブース出展（8月）
  - ・ 2023年度電気関係学会東北支部連合大会での企画セッション（9月）
  - ・ VACUUM真空展2023でのブース出展（11月）



12月 第4回チャレンジ部  
(オープンラボ)

### (3) ILCによるエコ社会の実現（グリーンILC分科会）

#### ア 熱輸送システムの実用化に向けた共同研究を推進

岩手大学と企業との共同による蓄熱吸着材（ハスクレイ）熱輸送システムの実用化に向けた研究について、研究協力者として取組を支援

#### イ 森林資源の活用及びCO2吸収量の把握に係る共同研究を推進

岩手大学と企業との共同によるILC建設候補地の地形情報の収集や森林のCO2吸収ポテンシャルの算定方法の整理など、ILC建設候補地域のカーボンニュートラルの実現と岩手県産木材の利活用による林業の活性化に向けた調査及び技術的検討を実施

#### ウ グリーンILCの普及啓発

(ア) 全国的なイベントを活用したグリーンILCに関する取組の周知

- ・ G7科学技術大臣会合での技術展示(5月) (再掲)
- ・ 第73回全国植樹祭「おもてなし広場」でのブース出展(6月)

(イ) グリーンILCについて広く周知を図るとともに、グリーンILCの実現に向け、研究者や自治体との連携を深めるため、グリーンILCセミナーを開催(2回)

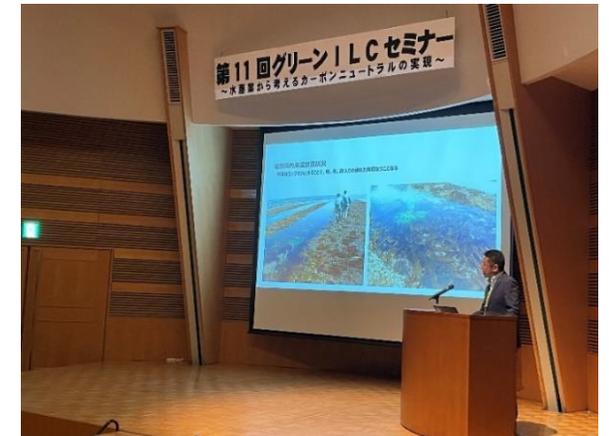
第1回(第11回) 「水産業から考えるカーボンニュートラルの実現」  
(参加者 84名)

第2回(第12回) 「2050年カーボンニュートラル達成に必須の再生可能エネルギー  
増強への道」(参加者87名)

※ 各講演は、後日、オンラインによる録画配信を実施



6月 全国植樹祭ブース出展  
(陸前高田市)



7月 第11回グリーンILCセミナー  
(洋野町)

#### (4) 外国人研究者等の受入環境整備（外国人居住環境分科会、外国人研究者等の医療分科会、教育分科会）

##### ア 外国人研究者等の生活環境整備

関係自治体と連携した海外研究者の生活支援を行う国際支援オフィスについて、外国人研究者等の生活支援に関する調査等を実施

KEKが業務委託により実施している「外国人向け生活支援サービス」に関する事例調査を実施  
医療通訳者養成研修会の開催（2月）【県南広域振興局】



2月 医療通訳者養成研修会  
（県南広域振興局主催）

##### イ 外国人児童生徒の受入れに関する検討及び受入態勢整備を促進

(ア) 外国人研究者等の子弟の教育に必要となる教員・支援員の確保・養成等に関する検討の参考とするため、外国人児童生徒受入れに関するオンラインセミナーを開催（1回）

講師：NPO法人ひろだい多文化リソースルーム 理事長  
弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 教授 吉田 美穂 氏  
テーマ：NPO法人ひろだい多文化リソースルームを中心とした広域ネットワーク体制の構築と支援者養成

- (イ) 既存小中学校において外国人児童生徒を受け入れる場合の課題について、関係部局との意見交換（2回）、関係市との意見交換（1回）を実施
- (ロ) 岩手県教育委員会において、「帰国・外国人児童生徒等教育関係者研修会」の開催のほか、「外国人児童生徒等教育推進体制モデル指定研究」を実施
- (エ) 県教委において、「日本語教育」の在り方及びその推進に関する本県の基本的な教育方針である「岩手県外国人児童生徒等教育方針」を策定



11月 外国人児童生徒受入れに関する  
オンラインセミナー

## (5) 交流人口の拡大、科学技術教育水準の向上（地域資源活用分科会、教育分科会）

### ア 海外に向けた情報発信強化

SNS・ホームページによる岩手の食や観光等の情報発信（再掲）

【海外向け】 THE KITAKAMI TIMES X(旧Twitter)「Iwate & the ILC」

【国内向け】 X(旧Twitter)「岩手&ILC」 Facebook「岩手&ILC」

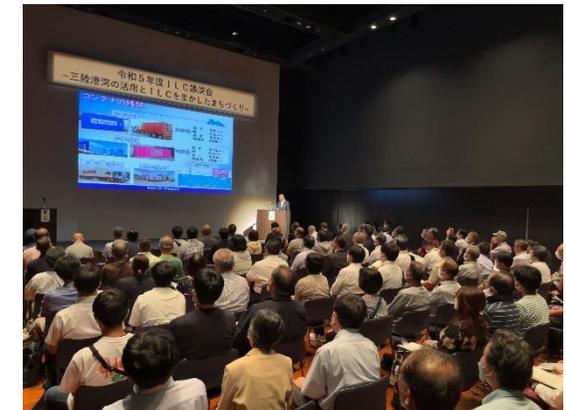
県政テレビ番組「いわて！わんこ広報室」における情報発信

ILCをもっと知ろう～グリーンILCの取り組み～（1/22～2/4）

### イ 機運醸成・理解促進

(ア) ILC講演会～三陸港湾の活用とILCを生かしたまちづくり～（岩手県主催）の開催（9月）  
参加者数103名（再掲）

(イ) これまでに県内事業者と協働して作成したILCオリジナルデザインの「南部鉄器風鈴」、  
「手ぬぐい」、「被災地松はがき」等を県内外のイベント等において配布



9月 ILC講演会（大船渡市）

### ウ 高校生を対象としたILCに関連する分野で活躍する人材育成

(ア) ILCを契機に科学に対する興味・関心の喚起・深化を図るため、県内の高校生・高専生を対象とし、次の取組を実施

- KEKの研究者を講師とした「科学講演会」を实地開催し、9校にオンライン配信（6月）
- 「いわての高校生サイエンス&エンジニアリングチャレンジ・コンテスト」を開催し、5校9チームが参加（12月）。優勝チームによる先端研究施設派遣研修を実施（3月）
- ILC建設候補地における持続可能なエコ社会を目指す「グリーンILC」の取組に対する興味・関心の喚起・深化を図るため、「エコ社会の実現」をテーマとした探究成果オンライン発表会を開催し、5校10チームが参加（3月）

(イ) 小中学生を対象とした理解促進の取組【盛岡広域振興局、県南広域振興局と連携】（再掲）  
県内の小中学校において出前授業を実施（8校）

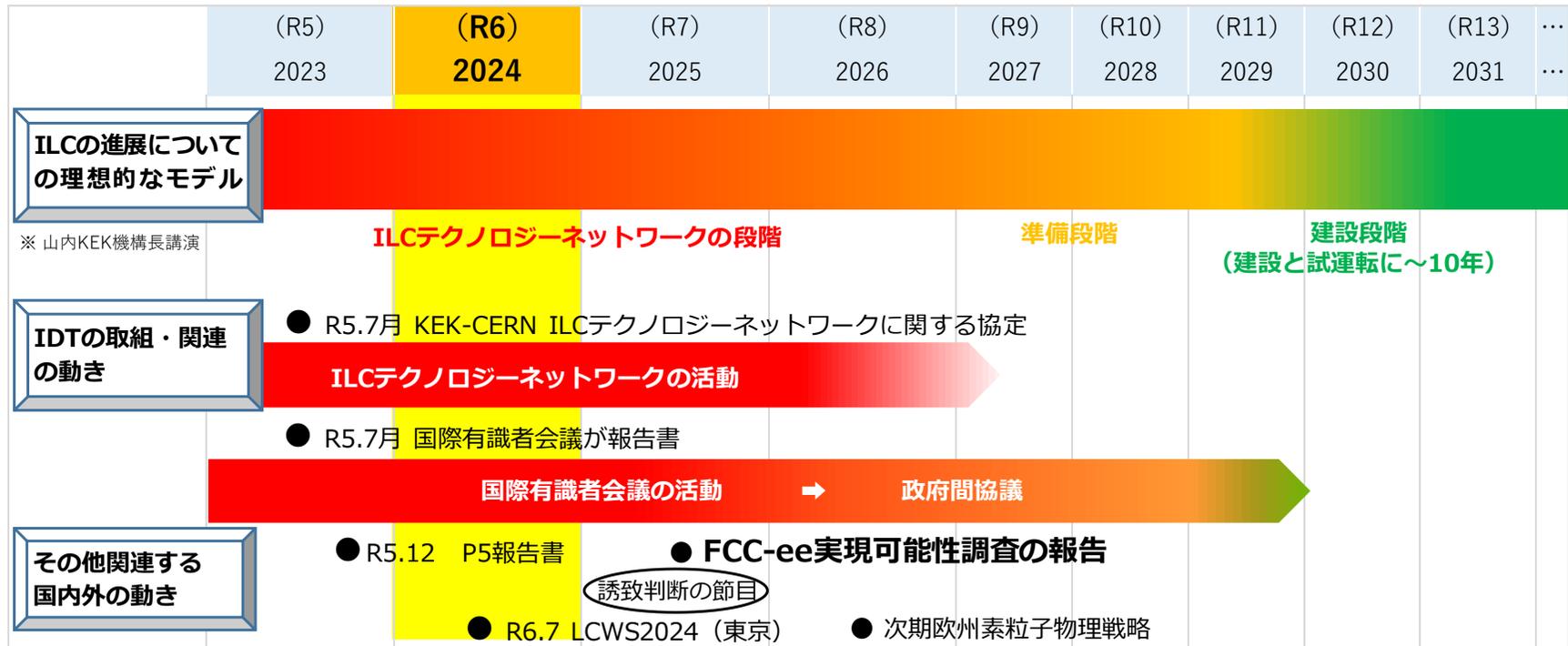


12月 高校生チャレンジ・コンテスト（アイーナ）

### 3 令和6年度におけるILC推進の具体的な取組内容

#### (1) 基本方針

- 日本政府によるタイムリーな誘致判断が行われるよう、県内外の関係団体とともに、後押しとなる国民的な機運醸成を図りながら、一体となった働きかけを行う。
- 「いわて県民計画（2019～2028）」に掲げる「ILCプロジェクト」を推進し、ILC誘致を契機とした産業振興やまちづくりなど、ILCの実現効果を高めるよう受入準備を促進する。



#### 【実現に向けた県の取組】

- **国民的な機運醸成【拡充】: 著名人や多様な人脈を活用したイベント開催、効果的なメディア展開など普及啓発活動を強化**
- **国への要望の推進: ILC関連予算の確実な確保、国家的プロジェクトとしての省庁横断による推進**
- **研究者の取組支援: 受入態勢整備等の取組の推進 (東北ILC事業推進センターとの連携)**

#### ■ 令和6年度想定スケジュール

	6月	...	8月	...	12月
国の動き	骨太の方針		概算要求		政府予算案決定
県の取組	政府予算要望				

## (2) ILC実現に向けた取組

現状と課題	令和6年度の取組の方向性
<p><b>&lt;現状&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国内外の研究者が2030年頃を建設開始とするタイムラインを公表</li> <li>○ ILCテクノロジーネットワークの枠組みによる国際協働の研究開発が進む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 政府予算に計上された将来加速器の性能向上に向けた重要要素技術開発費（7億円）を活用</li> </ul> </li> <li>○ 米国の今後10年の素粒子物理学の方向性を示す報告書に、米国が貢献するプロジェクトの選択肢として、ILCを多額の予算規模と共に掲載</li> <li>○ 県内外の関連団体による講演会等の活動が活発化</li> <li>○ 新たに内閣府と文部科学省による「将来の高性能加速器に関する連絡会」が設置（R6.2）</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協働による加速器の研究開発に資する予算措置</li> <li>○ 関係省庁が連携して取り組む国家プロジェクトとして位置づけた政府全体での誘致推進</li> <li>○ 日本政府が主導しての国際的な議論の推進</li> <li>○ 建設候補地として必要な受入環境の整備</li> </ul>	<p><b>令和6年度の取組の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>国等への働きかけ</b> <p>ILCの実現によるイノベーションの創出と産業の発展、新たな地方創生と東日本大震災津波からの創造的復興などの多様な価値を県内外の推進団体と共有し、全国知事会等とも連携しながら、国や政府与党に対する働きかけを実施</p> <p><b>【要望項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際協働による加速器の研究開発に資する予算措置</li> <li>・ 関係省庁が連携して取り組む国家プロジェクトとして位置づけた政府全体での誘致推進</li> <li>・ 日本政府が主導しての国際的な議論を推進</li> </ul> </li> <li>○ <b>研究者の取組への支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北ILC事業推進センター事業として研究者が推進する取組を支援し、ILC受入に必要な環境の整備を推進</li> <li>・ LCWS2024（東京）等の機会を捉えた建設候補地における取組の発信</li> </ul> <p><b>【東北 ILC 事業推進センター令和6年度事業（予定）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地形・地質調査、施設配置</li> <li>・ 物流、組立拠点等の研究</li> <li>・ まちづくり、受入環境整備</li> <li>・ 地域住民の理解促進活動</li> <li>・ 加速器関連産業の振興方策</li> <li>・ グリーン I L C など</li> </ul> </li> </ul>

現状と課題	令和6年度の取組の方向性
<p>○ 日本政府のタイムリーな誘致判断の後押しとなる国民的な機運の醸成</p>	<p>○ <b>国民的な機運の醸成【拡充】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国のタイムリーな誘致判断に向けた ILC への国民理解の促進及び国民的機運醸成の必要性が高まっており、イベントへの出展による PR 等の取組に加え、<u>これまでのつながりを生かした様々な人材の活用によるイベントの開催や効果的なメディア展開を行うなど</u>、多様な普及啓発活動を県内外の推進団体とともに実施</li> <li>・ LCWS2024（東京）等の機会を捉えた国民向けの情報発信</li> </ul> <p>&lt;その他、従前の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及啓発の推進（講演会・研修会等の開催）</li> <li>・ 地域住民を対象とした説明会等の実施（解説セミナーの開催）</li> <li>・ イベント等への出展による PR（ニコニコ超会議 2024、真空展 2024 ほか）</li> <li>・ 国内外に向けた情報発信（Twitter、THE KITAKAMI TIMES 等）</li> </ul>

(3) ILC プロジェクトの推進

- ILC の実現及び ILC の多様な効果の地域への波及に向け、いわて県民計画（2019～2028）に掲げる ILC プロジェクトを全庁挙げて推進するため、岩手県 ILC 推進本部を設置し、部局横断の取組を推進
- ILC プロジェクトを推進する方向を示す戦略として策定した「ILC による地域振興ビジョン」に基づき、受入準備、関連産業の振興や人材育成等の取組を推進

① 国際研究拠点の形成支援と研究開発を目指す人材の育成

[まちづくり・インフラ整備分科会、産業振興分科会] ふる・環境・商工・県土・盛岡局・県南局・県警・ILC

現状と課題	令和6年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産学官の共同研究による「まちづくりのモデルケース」策定</li> <li>・加速器関連産業技術者の育成</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係市町における ILC を契機としたまちづくりの支援</li> <li>・ILC に関わる幅広い分野で活躍できる人材の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>ILC 誘致を契機にした居住や交通、エネルギー等に関する地域の将来まちづくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手大学及び東北 ILC 事業推進センターによる共同研究「ILC 誘致を契機にしたまちづくり（ILC まちづくり）の研究」に協力し、説明会や意見交換会の開催など、市町村のまちづくりに生かす取組を推進 [東北 ILC 事業推進センターが行う事業の支援]</li> <li>・研究者等による環境影響評価の実施に向けた意見交換等を継続</li> </ul> </li> <li>➤ <b>加速器関連産業など県内企業の技術力向上への支援を強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわて加速器関連産業研究会を通じた技術セミナーを実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>ILC 推進事業費 (ILC)</p>

## ② イノベーションの創出 [産業振興分科会] ふる・商工・盛岡局・県南局・ILC

現状と課題	令和6年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業の加速器関連産業への参入に向けた商談取引支援</li> <li>産学が連携した共同研究の実施等について意見交換</li> <li>企業技術者を対象とした技術支援</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業集積に向けた取組</li> <li>県内ものづくり企業の参入と受注につながるオープンイノベーションネットワークの構築</li> <li>加速器関連先端技術を担う専門人材の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>企業の技術力向上支援及び加速器関連産業への参入支援を強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>いわて加速器関連産業研究会を通じた技術セミナーを実施（再掲）</li> <li>国内加速器研究施設の高度化による受注を見据え、高度化専門知識のある加速器コーディネーターを配置し、企業訪問や研究機関等とのマッチングを実施</li> </ul> </li> <li>➤ <b>いわて加速器関連産業研究会を軸にした、大学、公設試験研究機関等との連携を強化</b></li> <li>➤ <b>加速器関連産業など県内企業の技術力向上への支援を強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>大手企業や研究機関との受注促進に向けた講習会を開催</li> <li>岩手 ILC 連携室・オープンラボに整備した機器を活用し、研究者と企業の共同開発、技術者向けの技術指導、国内外研究者との交流等を実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>ILC 推進事業費(ILC)</p> <p>同上</p>

## ③ グリーン ILC（環境、エネルギー）によるエコ社会の実現 [グリーン ILC 分科会] 環境・農水・県土・県南局・ILC

現状と課題	令和6年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ILC のエネルギー利活用に向けた、「吸着材蓄熱システム ハスクレイ」による熱輸送システムの実証実験</li> <li>カーボンニュートラルの実現に向けた持続可能な森林資源の活用方法の研究</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ILC におけるエネルギー利用を地域経済の活性化や環境への配慮等につなげる方策の検討</li> <li>グリーン ILC の理念・取組の普及啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>熱輸送システムの実用化に向けた共同研究を推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「吸着材蓄熱システム ハスクレイ」による排熱輸送の産業化を見据え、ハスクレイの価格の低廉化等に向けた検討を実施</li> </ul> </li> <li>➤ <b>グリーン ILC の普及啓発や、カーボンニュートラルの実現に向けた森林資源の活用及び CO2 吸収量の把握に係る共同研究を推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン ILC セミナーの開催等による普及啓発、グリーン ILC 啓発用リーフレットを活用した P R を実施</li> <li>ILC 建設候補地地域の森林の CO2 吸収量の算定手法等について検討</li> </ul> </li> </ul>	<p>ILC 推進事業費(ILC)</p> <p>同上</p>

④ 国際性豊かで便利な暮らしやすいコミュニティの形成 [居住環境、医療、教育分科会] 政企・ふる・保福・県南局・医療局・教委・ILC

現状と課題	令和6年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外研究者等の生活支援のための国際支援オフィスと関係自治体との連携体制の構築検討</li> <li>海外研究者子弟の既存校等での受入れ検討</li> <li>海外研究者等の医療に関する支援の取りまとめ及び課題の整理・検討</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外研究者・家族及び地域住民が暮らしやすい社会の実現と多文化共生コミュニティの形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>海外研究者の生活支援のための行政手続等、具体的支援内容を検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外研究者の生活支援を行う国際支援オフィスと関係自治体との連携の在り方について検討</li> <li>多文化共生を担う人材育成や地域づくりに向けたセミナー等の実施</li> <li>県民を対象とした多様な文化への理解促進などを目的とした研修会等の開催</li> </ul> </li> <li>➤ <b>外国人児童生徒の受入れに関する検討及び受入態勢整備を促進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人研究者等の子弟の教育に必要な教員等の人材の確保・育成等に関する検討</li> </ul> </li> <li>➤ <b>海外研究者等が医療機関受診の際に必要なとする具体的支援について、関係団体と検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人を対象とした医療相談会への支援等の実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>ILC 推進事業費 (ILC)</p> <p>地域多文化共生推進費(ふるさと)</p> <p>地域経営推進費 (沿岸局)</p> <p>ILC 推進事業費 (ILC)</p> <p>地域多文化共生推進費(ふるさと)</p>

⑤ ILC を活用した交流人口の拡大、科学技術教育水準の向上 [地域資源活用、教育分科会] ふる・農水・商工・県南局・教委・ILC

現状と課題	令和6年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ILC 関連情報や県内の食・観光情報の海外向け発信</li> <li>小中学校での出前授業、高校生を対象とした講演会等を通じた科学への関心の喚起</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外向け情報発信の強化</li> <li>科学に興味を持つ児童生徒の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>海外向け情報発信</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>THE KITAKAMI TIMES や SNS による、ILC に関する情報及び岩手の魅力（食や観光、岩手での生活）の発信</li> </ul> </li> <li>➤ <b>機運醸成、理解増進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>岩手 ILC 連携室・オープンラボ見学受入</li> </ul> </li> <li>➤ <b>県内の小中学生・高校生を対象に、ILC を含む科学への関心を喚起する取組を強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生・高専生を対象とした科学講演会、小中学生を対象とした出前授業の実施</li> <li>科学・工学コンテスト、探究成果オンライン発表会の開催</li> <li>ILC に関係する専門家などの派遣を実施</li> <li>理数系人材等の輩出を加速するため、探究的な学習を STEAM の視点から深める取組を推進</li> </ul> </li> </ul>	<p>ILC 推進事業費 (ILC)</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>地域経営推進費 (盛岡局、県南局)</p> <p>探究・STEAM 教育推進事業費(教委)</p>

## 関係団体による講演会・セミナー等一覧（令和5年度）

時期	主催	名称（場所）
4月	岩手県農業土木技術協議会	岩手県農業土木技術協議会一般研修会（盛岡市）
5月	一関市・平泉町 I L C 誘致推進協議会	一関市・平泉町 I L C 誘致推進協議会総会における講演（一関市）
6月	大船渡市 I L C 推進協議会	大船渡市 I L C 推進協議会総会における講演（大船渡市）
7月	岩手県学校給食会	北海道・東北ブロック学校給食会合同職員研修会（盛岡市）
8月	岩手県国際リニアコライダー推進協議会	I L C 公開講演会（盛岡市）
	東北 I L C 事業推進センター	I L C 計画現状説明会（奥州市）
9月	いわて企業立地応援団	いわて企業立地応援団情報交換会（東京都）
	岩手大学	サステナビリティ国際ワークショップ（盛岡市）
11月	岩手県市議会議長会	岩手県市議会議員研修会（盛岡市）
12月	東北 I L C 推進協議会	I L C 講演会（仙台市）
	I L C 実現建設地域期成同盟会	I L C 実現建設地域期成同盟会講演会（一関市）
1月	岩手県商工会議所青年部連合会	岩手の未来をかたっぺ！～ I L C を契機として国際化や街づくりについて考えよう～（奥州市）
2月	東北 I L C 事業推進センター	I L C 解説セミナー（一関市）
3月	岩手大学、岩手県立大学、地球システム総合研究所 I L C 計画研究会	アジア初となるグローバル研究所とまちづくり～復興から次のステージへ！ 新しい時代のビジョン～（盛岡市）
	東北 I L C 推進協議会	I L C 講演会（仙台市）